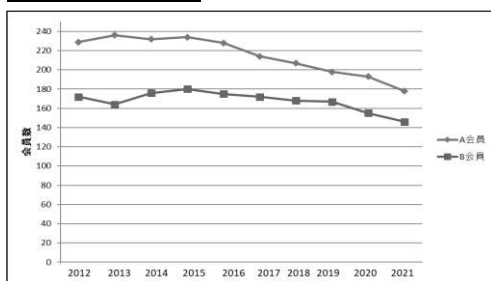


報告ダイジェスト

- ・ 会員拡大強化月間について (報告 1)
- ・ 青山学院大学/アートコネクト イベント報告 (報告 2)
- ・ 渋谷くみんの広場開催 (報告 3)
- ・ 中堅職員研修報告 (報告 4)

報告 1 会員拡大強化月間について：ご協力のお願い

● 会員数の減少



ぱれっと創立以来、皆様からいただく年会費は私たちの活動の大変重要な基盤となってきました。特に福祉制度の枠外事業であり、単体で安定した収入を得られる形になりにくい「たまり場ぱれっと」「ぱれっとインターナショナル・ジャパン」の二つは、会費や寄付が大切な資金源となります。任意団体「ぱれっとを支える会」創立当時(1983年)は、部屋を借りるための費用や、行事を行なう上での補填などが目的でしたが、事業の拡大に伴い、「人」にかかる支出も増えています。この会費収入が、上のグラフでもわかるとおり、ここ数年減少してきており、40周年を目前に、改めて会員拡大強化を図ることになりました。

● 会員種別

現在ぱれっとには次の表のような会員の種別があります。このうち、A会員、B会員、マンスリーサポーターは「正会員」と呼ばれ、総会での議決権があります。一方、東京都より税制優遇について認定を受

けているぱれっとでは、賛助会費は寄付金と同じ位置づけ(議決権は無し)になります。

	種別(いずれも一口)	年会費
正会員	A会員	6000円
	B会員	3000円
	マンスリーサポーター	1000円×12か月
賛助会員	個人	10000円
	法人	30000円

寄付者は、当会より発行する寄付金受領証を確定申告時に利用していただくことで個人、法人とも税制優遇を受けることができます。

● 皆様にご協力いただきたいこと

▶まだご入会いただいていない方々へ
ぜひ会員となって、ぱれっとを継続的に支えてください。

▶すでにご入会いただいている方々へ
税制優遇をご利用いただける「賛助会員」への切り替えが可能です。

詳しくは事務局長南山までお気軽にお問い合わせください。

Tel.03-5766-7302 E-mail: palette@npo-palette.or.jp

皆様のご協力をよろしくお願いたします。

(事務局長 南山達郎)

報告2 工房ぱれっとの秋～地域で活躍～

●「つくろう! My らぶらび」

10月29日、青山学院大学シビックエンゲージメントセンター(以下CEC)にて、株式会社ビームス様から事情により販売できなくなってしまった洋服をご提供いただき、参加者が工房ぱれっとメンバーと机を囲みながらオリジナルぬいぐるみ「らぶらび」を作るワークショップを行ないました。大勢の学生ボランティア達が運営を担い、大変賑やかな一日となりました。



当日は BEAMS COUTURE デザイナーの水上路美さんが製作アドバイスをしてくださり、小さなお子様から大人まで70名近いお客様が思い思いの材料を選び、自由な発想でぬいぐるみを完成させました。水上さんは「想像以上にたくさんの方が来てくださり、嬉しかったです。皆様の素晴らしい感性、刺激的でした」とのことです。

工房ぱれっとの黒沢さんは「いろんな人とお話できて楽しかったです」、桶谷さんは「屋台でポップコーンを食べました。おいしかったです」とのこと。同日に開催されていた青山祭も楽しみ、メンバーも大満足の1日となったようです。

素敵な機会を作ってくくださったビームス様、CECの皆様、学生ボランティアの皆様、ありがとうございました。

●「シブヤフォント 恵比寿アートコネクト」

11月17日～19日には、シブヤフォントの製作に関わり、恵比寿に拠点をおく3事業所(ワークセンターひかわ・くるるえびす・工房ぱれっと)が合同で、シブヤフォントを広め、地域の方々と交流するイベントを開催しました。工作プログラムや展示、マルシェなど、肌寒い秋風とは裏腹に熱気溢れる3日間でした。

工房ぱれっとは、シブヤフォントの「らぶらび」柄と各種フォントをベースに用い、参加者が色を塗ったりパーツを貼ったりしてオリジナルカレンダー作りを楽しめるプログラムをご用意。完成したら工房ぱれっとの吉井さんがラミネートをして、お一人お一人にプレゼント。「次の人ー!はい、どうぞ!来てくれてありがとうね」手渡す吉井さんも受け取る方もとても良い笑顔をしていました。

また、会場を彩り、記念撮影スポットとして大人気だった



シブヤフォントアート横断幕は、事前に3事業所のメンバーがくるるえびすに集まりペイントしたもの。事前準備を通して3事業所のメンバーとスタッフの絆が深まったのも、嬉しい収穫でした。



これからも恵比寿地域を私達の創造力で一緒に盛り上げていきたいですね!

(工房ぱれっと 玉井七恵)



報告3 第45回ふるさと渋谷フェスティバル開催

昨年11月5日(土)、6日(日)の二日間
にわたり、代々木公園にて3年ぶりとなる「渋谷くみんの広場 ふるさと渋谷フェスティバル 2022」が開催されました。今も続くコロナ禍の中、ぱれっと親の会を始め、準備を含めて多くの方々のご協力を頂きながら、今出来ることを皆で考えながらの出店となりました。ご報告です。

●見える福袋!?

出店にあたり、以前と同じように作業所製品の販売と、企業の皆様からのご寄付の品を販売するバザーを企画しました。大きな課題は「どう接触を少なくするか」。たくさんの人に来てもらいたい、けれども、品物の陳列を含めて接触は極力少なくしたいという一見矛盾する流れを解決する方法として考え出したのが、大き目のビニール袋にあらかじめ複数の食品、文具、生活雑貨を入れておき、500円、800円、1000円などの値段を付ける「見える福袋」。これなら、中の品物に直接触れる機会は少なくて済みます。また、二日間の品物の量も比較的容易に調整できました。このアイデアは好評で、中でも食品に関しては両日ともにあつと言う間に売り切れ、他の商品も大変人気でした。売上はコロナ禍以前には及ばなかったものの、交流という意味でも充実した二日間になりました。

(事務局長 南山達郎)



【見える福袋(文具バージョン)】

●感想

3年ぶりに開催されたくみん祭りはコロナ禍の為、感染対策を考えながらの出店となりました。今年のバザーはリサイクル品、試着が必要な衣類と靴、アクセサリなどの小物類の出品を控えました。企業からご寄付いただいた品物を種類別に見える福袋にしてお客様に買い物を楽しんでいただきました。コロナ前と比べてお客様が少なかった事、お値打ち品、必要な物に限って買い物をされる方が多かった印象でした。

(ぱれっと親の会会長 村上春奈)

僕はくみんの広場に参加するのは今回が初めてで、屋台がずらりと並んでいる所に自分が参加しているだけでワクワクしました。更には、ぱれっと親の会ととなり合わせでの販売というのも新鮮で、僕が困ったりしていると親の会の人たちはすかさず、助けに入って下さってとても頼もしかったです。また、同じ地域の他の事業所や親の会などが出店をしていて、こんな活動をしているところもあるのだなど、様々な活動を知ることが出来ました。そして、開催された二日間とも、天候に恵まれ心地よい陽気の中での販売会になりました。晴天の下を子どもが親の手を引きながら、ぱれっとの前で立ち止まり「クッキーおいしそう!」という声を聞いてほっこりした気持ちになりました。

(おかし屋ぱれっと 井上ムハンマド)

【ご寄付いただいた企業の皆様】(順不同・敬称略)

株式会社大塚商会 株式会社ナイガイ
丸美屋食品工業株式会社 シマダヤ株式会社
株式会社トウ・アドキューピー
株式会社大和証券グループ本社

※ご支援ならびにご協力ありがとうございました!

報告4 社会福祉法人全国社会福祉協議会主催 中堅職員研修報告

11月7日と8日の2日間にかけて、全国社会福祉協議会主催の福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程の研修をオンラインで受講しました。この研修は、入職後3年以内の職員が受ける「初任者コース」から施設長クラスが受ける「上級管理者コース」の5段階で構成されています。私は今回、担当業務の独力遂行が可能なレベルの職員である「中堅職員コース」の研修を受講しました。障がい分野だけではなく、都内にある高齢者、児童に携わっている事業所の職員らが参加しており、事例検討を通して、今回の研修のテーマの一つである“中堅職員としての姿勢や役割は何か”などについてグループワークで理解を深め発表し合いました。

まず姿勢について、中堅職員は組織の中核メンバーとしての当事者意識を持ち、組織の業務や目標達成に寄与することが大切だということが挙げられていました。そしてそれに留まらず、組織の目標を踏まえて自分自身の目標や役割を決めていくことが求められると認識しました。

次に役割についてですが、“メンバーシップの発揮”が重要であるということが挙げられました。メンバーシップは「組織メンバーの一人ひとりがプロとして果たすべき役割と使命を正しく理解し、組織目的の達成に向けて行動を起こすこと」です。メンバーシップはフォロワーシップ(=上司から受けた指示を忠実かつ着実にやり遂げ、組織が掲げる使命や役割を忠実な

フォロワーとして果たしていくこと)とリーダーシップ(=組織やチームをあるべき方向に導き、着実に成果を上げていくこと)の2つの要素から成り立っており、この2つをバランス良く発揮していくことが求められます。言われたことをただ遂行していただくだけではなく、上司の指示・意図を理解し後輩をフォローし、逆に後輩職員からの思いを上司に伝えていくことも中堅職員にとっての大事な役割だと学びを深めました。

特に後輩職員の育成についてはどこの事業所でも人材不足が課題ということもあり自分たちには何ができるのかという活発な意見が交わされました。長く働き続けてもらうために「誰もが共通の対応ができるように業務マニュアルを作成していくこと」や「後輩職員に話しかけられやすい雰囲気を作ること」、「業務内容がきちんと伝わり説明できるように、各事業の内容・制度について私たち自身が理解を深める」ことなど、様々な意見が出ました。

今年度からおかし屋ぱれっとにも井上さんと武井さん(たまり場ぱれっとと兼任)の2名が入ってきました。先輩職員として自分に何ができ、何を伝えられるのか自問自答している日々が続いています。どの職員にとっても風通しの良い職場であり続けられるよう、自分の立ち位置を自覚しながらこれからも努力を重ね、みんなと協力しながら頑張っていきたいと思います。

(おかし屋ぱれっと 松本亜沙子)